

枚方宿の町家が国登録有形文化財に 江戸末期から残る小野家住宅、旧街道の景観形成で評価

◎写真あり 小野家住宅 (枚方市文化財課提供)

旧京街道枚方宿に残る江戸末期の町家・小野家住宅(枚方市新町)が国の登録有形文化財に登録される。7月16日(金)に文化庁文化審議会から文部科学大臣に答申される予定。今回登録されるのは主屋・離れ・道具蔵の3棟で、同地区に残る町家としては大規模なもの。旧京街道の景観を形成する貴重な建物群であることが評価された。枚方市内で登録有形文化財に登録される建造物は5件目となる。

★小野家住宅は旧京街道枚方宿に残る大規模な町家で、今回、江戸末期の主屋、離れ、道具蔵の3棟が登録される。市内で現在登録されている国登録有形文化財(建造物)は大阪歯科大学牧野学舎本館、奥野家住宅(春日)、田中家住宅(山之上)、松宮家住宅(非公開)の4件あり、小野家住宅は5件目となる。



写真 小野家住宅

★登録有形文化財(建造物)とは、文化財保護法に基づき、保存や活用についての措置が特に必要な文化財建造物で、文部科学大臣により文化財登録原簿に登録される。対象は、建築後50年を経過している建造物で、国土の歴史的景観に寄与しているなど、一定の評価を得たもの。今回、小野家住宅は登録基準(一)「国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当するものとして評価された。

★小野家住宅は、7月16日(金)に開催される文化庁文化審議会文化財分科会での審議・議決を経て、文部科学大臣に答申される予定。今後、官報告示を経て正式に有形文化財として登録される。

★本件は、文化庁、大阪府教育庁でも同日、「国登録有形文化財(建造物)の登録について」として、各担当報道機関に発表をしているものの中の枚方市該当分。

★小野家住宅は現在も居住されているため、見学できるのは外観のみで、建物内部や敷地内は非公開となる。

★小野家住宅の概要

・名称及び建築年代

小野家住宅

主屋：江戸末期／昭和初期・同41年（1966）改修

離れ：江戸末期／平成25年改修

道具蔵：江戸末期／昭和35年（1960）頃改修 以上3件

・所在地

大阪府枚方市

・登録基準

基準（一） 国土の歴史的景観に寄与しているもの

・建造物の説明

小野家住宅は、枚方宿の旧京街道沿いに位置する旧家で、江戸時代に醤油屋を営み庄屋を務め、明治時代には肥料や種を扱う商売をされていた。このたび屋敷地に残る歴史的な建造物3件が登録されることになった。主屋は大規模な町家で切妻造り棧瓦葺き平入り、つし二階建ての建物。旧京街道に面した通り側の外観には、揚げ見世や半蔀、出入口の引込み大戸など、江戸期の町家建築を特徴づける設備がよく残っている。

離れは、主屋の背面側に中庭を挟んで建つ木造平屋建ての建物。主屋から離れに通じる渡り廊下は中庭を囲むように繋がり、中庭と一体となって屋敷地の景観を形成している。

道具蔵は、主屋背面の屋敷地南辺中央に建ち、軒裏を波型に塗り込めた2階建ての土蔵。

以上のように小野家住宅は枚方宿に残る大規模な町家であり、旧京街道の景観を形成する貴重な建物群であることから、登録基準（一）「国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当すると評価された。

※揚げ見世：主に関西の町家に見られ、みせの間の正面・軒下において柱外側に軸吊されている縁台のこと。

※半蔀：上半分を外側へ吊り上げ、下半分をはめ込みとした蔀戸のこと。

<お問い合わせ> 観光にぎわい部 文化財課 ☎072-841-1411（直通）